

家庭科消費分野における意思決定の変化に関する研究

—「エシカル消費」をテーマとした授業実践を通して—

木 場 雪 香

(文教大学教育研究所客員研究員)

Research on Changes in Decision-Making Processes in Studies on
Consumption as Part of Home Economics:
Through Classroom Practices Relating to the Theme 'Ethical Consumption'

KOBA YUKIKA

(Guest Researcher of Institute of Education, Bunkyo University)

1. はじめに

平成30年度告示「高等学校学習指導要領解説 家庭編」(以下 新学習指導要領)では、消費分野の名称が、「生活における経済の計画と消費」から「持続可能な消費生活・環境」へと変更になった。名称変更の背景には、国際連合がSDGsなど持続可能な社会の構築に向けて、消費生活と環境を一層関連して学習できるようにし、消費者教育推進法の定義に基づく消費者市民社会の担い手として、行動できる生徒が育つことを意図して変更が行われている¹⁾。

持続可能な消費生活を学習するにあたり、新学習指導要領 家庭総合では「(2) 消費行動と意思決定」の領域では、次のように内容を取り扱うこととなっている。

(2) 消費行動と意思決定

ア (ア) 消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解を深めるとともに、生活情報の収集・整理が適切にできること。

イ 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動できるよう考察し、責任ある消費について工夫すること。

また、内容の解説部分では、消費行動の意思決定については、「消費者には、権利だけでなく責任もあることを自覚して、環境や社会へ与える影響をも考慮して適切な意思決定できる能力を身に付けることができるようにする。」²⁾とある。

しかしながら、高等学校では新学習指導要領より各学科に共通する教科「家庭」の科目数が3科目から2科目に減少し、標準単位数が2単位の家庭基礎を選択する学校が増えるのではないかと危惧されている。家庭科の少ない時数の中で2022(令和4)年4月1日より、成人年齢の引下げに伴い、消費分野は契約や消費者問題、消費者の自立と支援の分野にも注力しなければならない。そのような状況で、自己の消費行動を振り返ったり、意思決定の方法を教えることが、どれだけ生徒の行動変容するかは判然とせず、おざなりになる可能性も考えられる。

そこで、本研究では、環境や社会に与える影響を考慮した消費として、「エシカル消費」をテーマとした意思決定能力を高める高等学校家庭科消費分野の授業開発を行い、適切な意思決定ができるようになるのか、また授業後の行動変容が見られるのかについて調査し、考察していく。本投稿では、その予備調査の結果を報告する。

(※下線引用者)

2. 意思決定とは

意思決定とは、金融広報中央委員会「知るばると」では、「ある欲求を充足し、目標を達成するために、自己の判断と責任をもって最適と思われるものを選び出すこと。消費者にとっての意思決定は、個人の価値観や金銭管理とも深く結びついていて、どのように生活していくかを選ぶことでもある。」³⁾とされている。

家庭科教育における意思決定とは角間(2009)は、「生活の中で人間が行動していくときの思考・決定の過程」⁴⁾とされ、佐藤(2009)では、「主体的に生活を創造するためには、毎日の種々の生活において、適切な価値判断と意思決定がなされることが必要である。それは、我々の日常生活が、意思決定の連続で成り立っており、我々は、日常生活の多くの場面で、選択、判断、決定を繰り返しておこなっているからである。これらの意思決定をどのように行なっていくかは、当然ながら生活の主体性に大きく関わることは明らかである。」⁵⁾とされている。

また、意思決定能力は、「自分自身の個性を最大限に発揮できるという点で、自己実現に近い特性を表す」⁶⁾個人志向性と「他者あるいは社会の規範への志向性であり、社会の中でうまく適応していくための特性を意味する」⁶⁾社会志向性の2つの価値意識を両輪にもつ能力である。自己の欲求を追求していく「個人志向性価値意識」だけでなく、地球上に共に生きる人・者・環境などに配慮して価値判断・決定する「社会志向性価値意識」をも兼ね備えたより質の高い意思決定能力が求められている⁷⁾。

3. エシカル消費とは

エシカル (ethical) とは、倫理的なという意味。エシカル消費とは、環境や社会への影響に配慮している消費生活のことを指す⁸⁾。

消費者庁では、エシカル消費とは、「地域の

活性化や雇用などを含む、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動のことです。私たち一人一人が、社会的な課題に気づき、日々のお買物を通して、その課題の解決のために、自分は何ができるのかを考えてみることに、これが、エシカル消費の第一歩です。」⁹⁾とされ、広い環境や社会まで考慮した消費者市民社会の実現を目指すために必要な概念といえる。

家庭科では、2022年9月現在、エシカル消費を取り入れた授業実践も小中高等学校で行われており、実践内容は、食や被服に関する内容が主である。Cinii Researchでは12件の家庭科のエシカル消費に関する実践論文がヒットし、高等学校家庭科の教科書にもエシカルファッションショーに関するお茶の水女子大学付属高等学校の実践事例が掲載されている⁸⁾。

4. 予備調査対象・期間・調査方法

(1) 調査対象

群馬県内A大学

大学生・大学院生20人 (F16人・M4人)

(2) 調査期間

2019年1月～7月

(3) 調査方法

①事前質問紙調査 (2019年1月実施)

②模擬授業実践 (2019年1月実施)

③事後質問紙調査 (2019年2月実施)

④6ヶ月後質問紙調査 (2019年7月実施)

5. 質問紙調査概要

(1) 質問紙の項目について

意思決定の認知度、頻度に関する質問2項目(「あなたは意思決定という言葉を知っていますか」「あなたはどのくらいの頻度で意思決定をしていますか」)。意思決定能力に関する質問17項目(消費の個人志向性に関する質問5項目と社会志向性に関する質問として社会考慮尺度12項目(斎藤1999)¹⁰⁾を採用)で実施した。(図1)

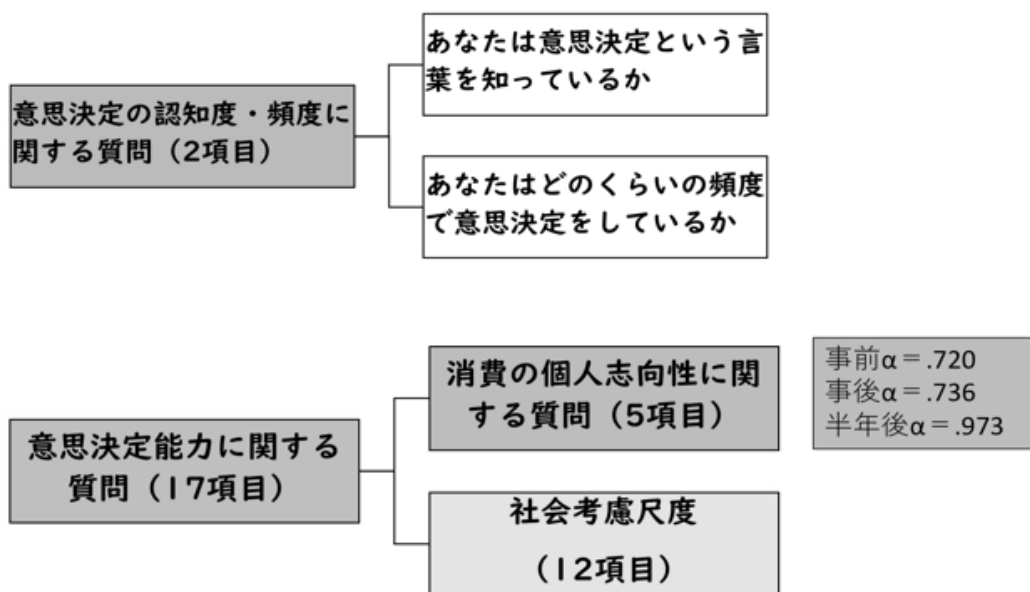


図1 質問紙調査の項目

消費の個人志向性に関する質問項目は、事前（ $\alpha = .720$ ）事後（ $\alpha = .736$ ）6ヶ月後（ $\alpha = .973$ ）と十分な信頼性が確保されたため、点数を合計し平均の推移を考察した。

また、実施にあたっては事前・事後・6ヶ月後の質問紙調査は同じ内容項目で行い、回答方法はGoogle Formsもしくは紙で行われた。
（2）社会考慮尺度について

社会考慮とは、適応や発達とは直接関係なく、同じ世の中に暮らす社会全体のことや、社会そのものといった大きな対象を意識している。社会考慮を測る指標として、斉藤（1999）¹¹⁾ は、社会考慮尺度を開発している。また、社会考慮と類似した概念に社会志向性

（伊藤、1993）⁶⁾ が挙げられる。そこで今回の質問紙調査では、社会志向性を測る指標として社会考慮尺度を採用している。

6. 模擬授業の実際と当日の様子

模擬授業は、高等学校家庭 家庭総合のC持続可能な消費生活・環境の領域を対象とする模擬授業を2019年1月に実施した。実施時間は、50分だった。

（1）本時の目標

消費が環境や社会に与える影響を考慮し自分なりの意思決定を行うことができるようにする。

(2) 本時の展開

	学習活動
導入	1. めあて「社会を考えた自分なりの意思決定をしよう」を知る。 2. 「エシカル消費」「消費者市民社会」「意思決定の流れ」について知る。 ○「ザ・トゥルー・コスト」(2015) ^{a)} の予告編を見る。
展開	3. デートの服(シャツ)を選択するグループワークに取り組む。 ○デートプランも含め個人でどのシャツを買うか選択し、何故他のシャツを買わないのか理由をワークシートに記入する。 ○班とクラスでみんなの意見を聞き、消費には様々な視点や考え方があることに気づかせる。
まとめ	4. 決定の再検討 ^{b)} を行う。 ○様々な意見を聞いた上で、最終的な意思決定を行う。 5. 本時の感想、振り返りを記入する。

a) アンドリュー・モーガン監督による、ファッション業界の裏側に迫った2015年の映画。パングラデッシュの衣服生産ビルが倒壊したラナプラザ崩落事故や衣服が廃棄される様子等の映像が予告編には含まれる¹²⁾。

b) 角間(2009)では、決定後実行に移す前にその決定についてもう一度検討する「決定の再検討」の段階によって、意思決定に責任をもつ自覚が生じ、意識的意思決定能力を育成することができる⁴⁾としている。今回の授業でも、自己の意思決定に責任を持ち、社会を考慮した行動変容して欲しいと考えたため、「決定の再検討」の段階を授業の終末に取り入れた。

(3) デート服(シャツ)を選択する課題について

高等学校では約9.5割で制服が採用されており¹³⁾、実際の高校生が服を自分で選択して購入したり、着たりする機会は少ない。

そこで、自分で服を選択し、購入する必然性を持たせるために、気になる先輩とデートするために白シャツを選択させる場面を設定した。また、実際の購入場面により近づける為に予算は、デート費用も含めて5000円とした。

生徒が選択することのできるシャツの種類

は7つ挙げ、衣服廃棄や廃液等環境面のみでなく、衣服を作る側の労働環境やシャッター商店街などの社会的問題、そして消費者トラブルも起きている個人間取引の問題、家庭科の技能(縫製や洗濯等)に関する問題も含む課題を設定した。(図2)

実際の購入場面では、1回の購入だけでなく、残金で何を買うかといった、連続した購入場面を想定し、意思決定をするだろうという予想の元、デートコースをどのようにプランニングするかも同時に聞くような課題も設定した。

白シャツ選択肢	価格
① ファストファッションで売られている白シャツ	1200円
② 古着屋で売られている白シャツ(ボタンが1つとれそう)	500円
③ オーガニックコットンを利用した白シャツ	1800円
④ 雑貨屋で売られているリメイク白シャツ	2000円
⑤ 兄弟からのお下がりの白シャツ(アイロンがかかってない)	0円
⑥ フリマアプリで見つけた白シャツ	1000円
⑦ 商店街のテーラーさんが仕立てた白シャツ	3000円

図2 白シャツの選択肢 詳細

(4) 本時で使用したワークシート

本時で使用したワークシートは以下の図のようにになっている(図3)。

ワークシートは、授業の導入部分での用語解説を書き写す欄、個人でシャツを選択し理由を書く欄、グループやクラスでの意見交流の様子をメモする欄、決定の再検討を行い最終の意思決定をする欄、本時の振り返りをする欄があるものを使用した。

図3 本時で使用したワークシート

(5) 当日の授業の様子、ワークシートの記入内容

予備調査では女性が多数受講していたため、グループ分けの際に必ず各グループに男性が1人以上入るよう工夫し、実施した。(図4・5)

また、授業当日は、グループワークで活発な意見交流が行われた。ワークシートの振り返りの欄には、「最初に見た映画の予告が考えさせられた。今まで商品が自分の手に届くまでのことを考えたことがなかったので、少し気にするようにしたい。」といったエシカル消費に関する認識が高まった記述があった。また、「理由をもって多くの選択肢の中から良いものを選ぶことで自分の消費行動に関心を向け、責任をもつことができると考えた。」という記述や、「自分のことばかりでなく、社会や地球のことを考えて選択できる(中略)自立した人間になっていくことが大切だと思った。」という意思決定能力や決定

の再検討、家庭科教育の根幹につながるような記述も見られた。

しかし、中には「理由があって、自分が決定していれば、消費は自分に見合ったものであれば何でもよいかとも思った。」という否定的な意見もみられた。以上から、今回の模擬授業における課題設定や、状況設定を今一度見直す必要もあると思う。

一方、「服を直せたら買える物の幅も増えるのになあと感じました。」という、記述もみられた。改めて、家庭科教育によって子どもたちの生活がより豊かになりうるということを自覚することもできた。



図4 グループでの話し合いの様子



図5 クラスで意見交流している様子

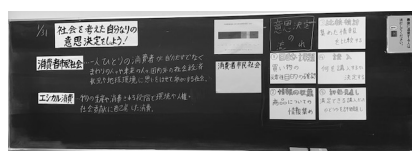


図6 本時の板書

7. 結果

以下では、質問紙調査による分析結果を述べる。

(1) 意思決定の認知度

「あなたは意思決定という言葉を知っていますか」という項目に対して、事前質問紙調査では、説明できるが10%、見聞きしたことがあるが90%だった。事後質問紙調査では、説明できるが70%、見聞きしたことがあるが30%と模擬授業も影響してか、説明できると回答した割合が高まった。6ヶ月後質問紙調査では、説明できるが64%、見聞きしたことがあるが36%と授業直後よりは多少意思決定の認知度が下がったが、半年経っても知識として意思決定を定着していたことが分かった。(図7)

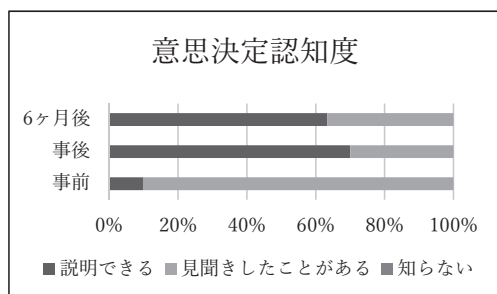


図7 意思決定認知度の変化

(2) 意思決定の頻度

「あなたはどのくらいの頻度で意思決定をしていますか」という項目に対して、事前質問紙調査では、いつもしているが35%、時々しているが60%、分からないが5%だった。事後の質問紙調査では、いつもしているが40%、時々しているが60%となり、いつもしていると回答した割合が高まり、分からないの回答が無くなった。意思決定の認知度と同様に、模擬授業において知識が定着したと考えられる。6ヶ月後の質問紙調査では、いつもしているが45%、時々しているが55%となり、

意思決定の頻度は、授業直後よりも6ヶ月経過した後の方が高まっており、授業で学んだことを日々少しずつ実践にうつしていることが伺える。(図8)

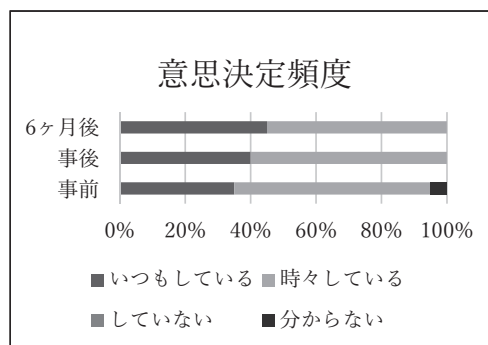


図8 意思決定の頻度の変化

(3) 消費の個人志向性に関する質問

消費の個人志向性に関する質問は、事前、事後、6ヶ月後の回答者全員の質問項目の得点を合計し、平均したものの変化について考察する。結果は、事前質問紙調査では10.90点、事後質問紙調査では12.55点、6ヶ月後質問紙調査では、8.33点であった。(図9)

消費の個人志向性に関する質問は、6ヶ月後の調査の方が事前調査よりも得点が下がってしまった。原因としては、模擬授業により消費の個人志向性に関しての知識は身についたが、実際に実践していくにつれて意識して消費する際には難しさを感じた結果となってしまったのかもしれない。伊藤(1993)では、社会化と個性化が顕著に問題化され始めるのは青年期である⁶⁾。とし、今回被験者の大学生、大学院生そして本研究の対象である高校生は、社会化と個性化が揺れ動く時期とされているという発達面も原因として考えられる。また、男子は個人志向性優位型であり、女子は社会指向性優位型であるという調査結果もある¹⁴⁾。被験者は女子に偏っていることもあり、今後の調査の際にはサンプルを考慮していく必要もある。また、今回の模擬授業では、

社会指向性価値意識に力を入れてしまった部分もあるので、個人志向性価値意識も高めていくような授業内容を変更していく必要も今後考えられる。

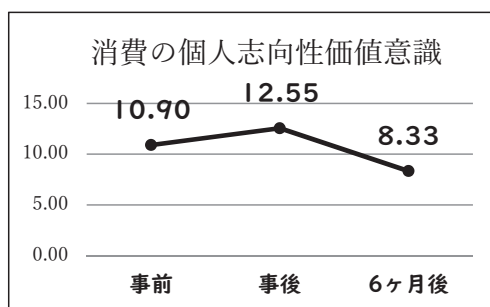


図9 消費の個人志向性価値意識の変化

(4) 社会考慮尺度

社会考慮尺度の質問項目は、消費の個人志向性に関する質問と同様に、回答者全員の質問項目の得点を合計し、平均したものの変化について考察する。結果は、事前質問紙調査では37.60点、事後質問紙調査では48.90点、6ヶ月後質問紙調査では42.00点であった。

社会考慮尺度の得点は、6か月後の調査の方が事後調査より若干下がるが、事前調査よりも高い得点を保つことができていた。

(図10)

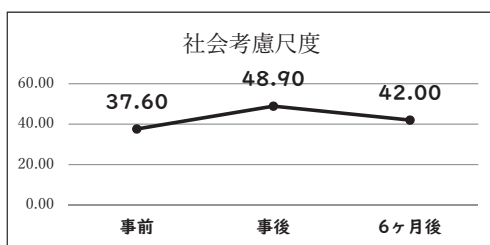


図10 社会考慮尺度の変化

8. 結語と課題

1回の模擬授業でも知識として意思決定の概念は定着することが分かった。

ワークシートの記述などからも、映画の予告や授業内容等の印象が残り、その後の生活

や意思決定の際に影響が出始めている可能性も示唆されるが、1回きりの授業では個人志向性価値意識や社会志向性価値意識の両輪を兼ね備えた質の高い意思決定能力を高めることは難しいことが明らかになった。従って、消費分野のみでなく衣食住、家族家庭、保育、福祉の各領域で意思決定能力を高める授業開発を行う必要があると考える。

今回の授業内容では、社会への影響を考慮した意思決定ができるようになるが、個人志向性を高めることは難しく、授業内容及び課題内容の再考が求められる。

今後は、高校生を対象にしてサンプルを増やして調査を行い、発達段階における変化も見えていく必要がある。本調査では、以上の予備調査の結果や課題を踏まえて授業実践及び調査していきたいと考える。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 家庭編 (平成30年度告示)』教育図書、2019、pp.74-81
- 2) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 家庭編 (平成30年度告示)』教育図書、2019、p.77
- 3) 金融広報中央委員会「知るぽると」2022年9月30日アクセス (<https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/yogo/a/ishikettei.html>)
- 4) 角間陽子「消費者教育・福祉教育における意思決定プロセスの学習」『家庭科教育における意思決定能力』2009、p.77
- 5) 佐藤文子「家庭科教育における意思決定能力育成の必要性 -教科論との関わりから-」『家庭科教育における意思決定能力』2009、p.10
- 6) 伊藤美奈子「個人志向性・社会志向性尺度の作成及び信頼性・妥当性の検討」『心理学評論』64-2、1993、pp.115-120

- 7) 伊藤美奈子『個人志向性・社会志向性からみた人格形成に関する一研究』北大路出版、1997、pp.6-12
- 8) 牧野カツコ他『家庭総合 自立・共生・創造』東京書籍、2019、p.219
- 9) 消費者庁「エシカル消費とは」2022年9月30日アクセス
(<https://www.ethical.caa.go.jp/ethical-consumption.html>)
- 10) 堀洋道 監『心理測定尺度集V』サイエンス社、2011、pp.304-312
- 11) 斎藤和志「社会的迷惑行動と社会を考慮すること」『愛知淑徳大学論集』24、1999、pp.67-77
- 12) シネマトゥデイ「ファストファッションの裏側では…！映画『ザ・トゥルー・コスト ～ファストファッション 真の代償～』予告編」2022年9月30日アクセス
(<https://youtube.com/watch?v=f4DtV61AT-g&feature=share>)
- 13) カンコー学生服「【Vol.83】『学校制服の着用状況』」2022年9月30日アクセス
(<https://kanko-gakuseifuku.co.jp/media/homeroom/121225>)
- 14) 伊藤美奈子「個人志向性・社会志向性に関する発達研究」『教育心理学研究』41-3、1993、pp.293-301